

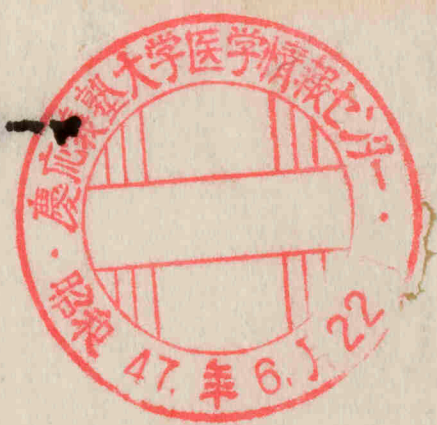
家乘別記

✕
k 43

F²
カ-45

49028
K

No. 2511
BK 43



富士川文庫
266

富士川家藏本

家乘別記卷二

創業紀

大物主

大物主ヲ、太伯ノ後ト定メ云フ、疑ハレク思フ人モ
アルヘケレト、必ナシケレハナラヌナリ、先日日本
ニ太伯ノ後ナリト云フ、西土ニテ云フナレト、自稱
レテ、太伯ノ後ト云フハ、元経薛氏傳ニ出タルヲ始
トス、東後ソノ薛氏傳ニ出タルハ、安東將軍倭國



廣

王ナリ、安東將軍ト云ハ家譜ニイフ安東ナリ、安東
 ハ長髓彦ヨリ出タリ、長髓彦ハ大物主ノ子ナルヲ
 鳥海家譜ニ出タリ、大物主ハ孰レノ神ノ子ナル下
 三紀ニソノ説ナレサルニヨリテ、大己貴ノ別名ノ
 振ニ思フ人アリ、出雲ノ神壽詞ステニ然リ然レト
 別ニ大物主ノ神孫モアレハ、別名ニアラサルヲ論
 ナレコレヲ太伯ノ後ト定ムルニ七証アリ、神光照
 海、忽以踊出波浪末、有浮歸来トアルハ、分明ニ来船
 来ノ光景ヲイヘルニテ、一証ナリ、コノ次ノ條ニ、是時

歸順之首、大物主云トアル、歸順ノ字、此國ノ人
 ニイフヘキニアラス、二証ナリ、汝命是誰、名字云何
 ト、大己貴ノ問レシモ、他國ノ人ナレハ也、三証ナリ、
 今欲住何處耶、ト問レシモ、此國ニ来コスハ、何レノ
 國ニ住ント思スニカト問レシニ、テ、四証ナリ、三輪
 ノ額字、神代ノ舊物ナリト云傳フルガ、古篆ノ體ナ
 リ、五証ナリ、三紀ニソノ世系ヲ記サズ、六証也、是ヲ
 太伯ノ後ト定ムルハ、安東將軍ノ自称ニ本ツケナリ、
 七証ナリ、又新羅記ニイヘル、他化自在天王之後孫、

術魂古訓
 余家三三、其知
 魂訓、未悔
 魔カ云、術字本
 非不好底字、只
 縁後來把做、重
 詐看、了、便道、
 不好、却不知天
 下事有難、須
 著有箇巧底、
 道理始得、當
 齊王見牛之時、
 惻隱之心、已奈
 乎、甲、見、
 鐘、事、大、
 得、只、得、以、
 見、者、而、易、
 周、旋、得、那、事、
 不、和、過、了、這
 不、忍、之、心、此、心、乃、得、流、行、若、者、時、無、箇、精、置、便、柳、過、了、這、不、忍、之、心、遂、不、得、而、流、行、矣、此、乃、所、謂、術、也、

安日長髓、從天下此國、ナト云ルヲモ思ヒ合ス、
 ナテ幸魂奇魂術魂ト云フハ、此ヨリ前ニ使譯從來
 レテ大己貴ヨリ、右稷稼穡ノ道ヲ大物主ニ學ハレ
 レニヨリ、汝ニ幸ク奇ニ術知ラ、與ヘレハ吾也ト云
 レレテ大己貴モ前ニ此事アリレ故、少モ教ヒテ
 ク唯然トイヘルナリ、大倭神社注進狀ニ和魂トア
 ルモ幸魂奇魂ノ意ト同レ
 古史通ニ云、大國主神ハ、既ニ百不足之八十隈ニ長
 ク隱レクマヒ、又、然ルニ大物主神、事代主神等ト共
 〇

ニ、高天原・參リタマヒキ、是スナハ大國主ト大
 物主トノ別トノ神ニテオハセシ、所、其證文分明也、
 トイヘルハ神皇正統記ニ大汝神ハ、此國ヲ去申テ
 カクレ給ト見ユ、此大物主ハ三輪ノ神ニマサナル
 一ニトアルニ、本ツキタル説ニテ、大物主ト大己貴
 ト一神ニアラガルトハ、古人モ云リ、
 漢ノ角里先生モ太伯ノ後ナリト云フ、通鑑ノ注ニモ云リ、一定トモ云カケレト
 事代主
 コ、ニ事代主ト云ハ、大己貴ノ子ノ事代主ニハ、
 ラテ大物主ノ子ヲモ、事代主ト云ヒナル一レ、
 〇三

漢籍ニ幹父之蠱ト云ゴトリ、嫡子ハ父ノ事ニ代ル
モノ、故事代ノ主トイヒテ、嫡子ノ通稱トセシモノ

ナラシム

天皇本紀ニ云、庚申年秋八月癸丑朔戊辰、天孫武當
立正妃、改廣求華宮、時有人奏曰、事代主神與三島溝
楨耳神女玉櫛媛所生之兒、貌曰媛、蹈鞠五十鈴姬命、
是國色之秀者、天孫悅矣、九月壬午朔乙巳、納媛、蹈鞠
五十鈴媛命為正妃、トイヒ、次文ニ、辛酉為元年、春正
月庚辰朔、尊正妃媛、蹈鞠五十鈴媛命、立為皇后、則大

神女也トアルハ、事代主數世ノ後ノ女ナルハ、

又天皇本紀ニ云、二年、緒立五十鈴依姬為皇后、即天

皇之媛也トアルハ、媛、蹈鞠五十鈴姬ノ妹ナリ、

本文ニ、永為皇孫奉護トアル皇孫ハ、後世ヨリ託シ

タルモノニテ、誤ナリ、天忍德別尊ノ藩衛ヲ任シタ

マヒシモノナレハ、當時ノ口語ニテハ、御子トイフ

ハナリナリ、

日本紀重仁二十五年ノ細書ニ、倭、大神著總積臣遠
祖大水口宿祢而誨之曰、大初之時期曰、天照大神悉

治天原皇御孫尊專治葦原中國之八十魂神我親治
大地官者言已訖焉トアルハ此時ノ誓約ノ語ナリ
一レコノ皇御孫尊ニ御子尊トアルハ一ナリ也
天神本紀ニ云以紀伊國忌部遠祖乎置帆負神定為
作笠者以彦狹知神為作盾者以天日一箇神為作金
者以天日鷲神為作木綿者以櫛明玉神為作王者使
天太玉命以弱肩被^{トキ}太手繼而代^代御手以祭此神者始
起於此矣且天兒屋命主神事之宗源者也故俾以太
占之卜事而奉仕焉トアルハ大物主神去^ヒカマヒレ

時ノ事ナルヘシ

長髓彦

是ヲ大物主ノ子ト云ハ鳥海系國ニ依^レトナホ
四証アリ初高皇產靈尊ノ大物主ニ皇子ノ藩衛ヲ
命シ後ニ饒速日尊ニ天降^カサシメ玉ヒシニ大物
主ノ領シ玉ヒレ地ヲカキテ他ノ地ニ到^リ玉フヘ
キニアラスカレハ大和國鳥見白庭山ニ降^リマセ
リニナハキ登美長髓彦居住ノ地一証ナリ安日王
ノ子孫ハ安倍ヲ氏トシ大物主ノ子孫ハ倭安倍ヲ

氏トセリ、同族ナレハナリ、二証ナリ、饒速日尊ノ子孫、後、物部氏ヲ賜ヘリ、古ハ外戚ノ名ニツキテ、氏ヲ賜ヘルト多シ、大物主ノ外孫ヨリ出タレハ、物部氏ヲ賜ヒシナリ、大物主ト云モ、大物部主ト云フニテ義ハ同シ、三証ナリ、饒速日尊ノ子孫世々大神ヲ祭ルテ掌リ玉フモ、大神ハ大神主ニテ座セハ也、崇神七年ニ、大物主神ヲ祭ラレシトシテ、麻治命五世ノ孫伊香色雄命ヲシテ、神物ヲ瑠タシメテ、掌ラシメラレタルモ、外戚ノ因アリナリ、四証ナリ、國史ニ大物主ノ子ト云フテ記サガルハ、五瀬尊ヲ射奉リレ

ニヨリテ、史ヲ修ルモノ、大物主ノ子ト云フテ、諱ヲ記サガルナリ、サレドモ心ヲ用テ見レハ、自カテ明白ナルナリ、

大成經ニ、這長髓彦神元火神尸化嶽山祇神子也トアルハ、同書ニ、去来丹尊因生火神炬着塵命見焦而崩于時去来諾尊、按所帶十握劍、遂斬炬着塵命、為段、為八段、八段各化為八山祇、一則首子、化為嶽山祇命、トイヘル、嶽山祇ナルハ、怪誕ナルナリ、大物主ノ別號ニ、嶽山祇ト云名ノ有レニテ、思

フフアリ、饒速日尊ノ天降マセレ、哮峯ノ哮字、舊訓
 イカルカトアレト、不審ナルト也、哮ハ字書、大慈
 也トイヒ、類聚名義抄、タケルトアレハ、タケトコ
 マニニ論ナレ、哮峯クケヤマトコムヘレ、足利治亂
 記ニ、嶽山上ハ、金剛山下ハ二上カ嶽ニツ、クトア
 ル嶽山ニテ、此邊ミナ大物主ノ領レ玉ヘル處ナレ
 ハ、嶽山祇ト云名ノアリシナルヘレ、應永ノ頃、昌山
 伊豫守義就カ籠リレ、河内國嶽山城ト云ミ、此處ナ
 リ、

日本神紀ニ、長髓是邑之本號焉、因亦以為人名トア
 ルニ、コリテ、通證ニ、嘗聞之、昔年大和國發得石棺、視
 其屍、則脛脚甚長大、與常人殊異矣、因以為長髓彦、然
 其與紀背馳如斯、不足信也トアルハ、日本紀ノ文ニ
 抱泥シテ、カクハ、イヘルナリ、其實ハ、長髓トハ、偉大
 夫ノ稱ニテ、脊髓ノ長大ナルヲ云、脊髓長大ナレハ、
 脛脚モ長大ナルト知ヘレ、脛脚長大ニシテ、常人ト
 異ナリトイヘルハ、マカフヘクモ、アラス、長髓彦ノ
 屍ナルヘレ、長髓彦居住ノ地ナル故ニ、邑ヲモ長髓

トイハルニ地名ニツキテ人名トセシニハナラ
天神本紀云、天照太神詔曰、豐葦原之千秋長、五百
秋長之瑞穗國者、吾御子正哉吾勝勝速日、天押穗耳
尊、可知之國言、寄詔賜而天降之時、高皇產靈尊兒思
兼神妹、萬籬豐秋津師姬、栲幡千、姬命為妃、誕生天
照國、照彥天火明櫛玉饒速日尊之時、正哉吾勝勝速
日天押穗耳尊奏曰、僕欲將降、裝束之間、所生之兒、以
此可降矣、詔而許之、

又曰、天神御祖詔授、天璽瑞寶十種、謂瀛都鏡一、邊都
鏡一、八握劍一、生玉一、死玉一、足玉一、道玉一、蛇
比禮一、蜂比禮一、品物比禮一、是也、天神御祖教詔曰、
若有痛處者、合茲十寶、詔一二三四五六七八九十而
布瑠部、由良由良止、布瑠部如此為之者、死人反生矣、
是則所謂布瑠之言本トアリ、コノ數字ノ唱ハサマ
ハ年中行事秘抄ニヨレリ、ヒトフタミ日、一句、イソ
ムエナ、ヤ、七言、コ、ノ夕リヤ、六言、ニ、歌人権輿
トイフハシ、天上ノ歌人、今ニ殘レルハ、コノ一首ノ

三十一、八、最、尊、ム、一、十、十、リ、コ、レ、ハ、御、鎮、魂、ノ、源
十、リ、舊、事、紀、玄、義、云、初、兩、都、俱、一、寶、鏡、四、五、六、七、俱
一、寶、珠、三、及、八、九、俱、一、寶、劍、但、第、十、寶、合、上、九、寶、又、云
十、種、先、奉、授、彼、饒、速、日、尊、此、尊、神、去、後、傳、太、子、美、真、千
命、以、相、承、之、然、神、日、本、磐、余、彥、命、令、平、此、國、其、後、奉、之
又、云、問、此、三、種、者、在、何、所、耶、答、以、往、九、帝、同、殿、同、床、然
至、崇、神、天、皇、御、宇、漸、畏、神、威、使、石、凝、燒、天、日、一、箇、二、氏
孫、奉、鑄、造、鏡、劍、以、為、護、身、將、改、奉、齋、千、時、倭、姬、頂、戴、三
種、廣、求、諸、處、遂、奉、鎮、座、勢、州、度、會、故、寶、鏡、則、內、宮、御、躰

其寶珠則外宮相殿但寶劍者日本武命平東夷時奉
止熱曰

天神本紀云高皇產靈尊勅曰若有葦原中國之敵
拒神人而待戰者能為方便誘欺防拒而令治平令三
十二人並為防衛天降供奉矣

天香語山命尾張連等祖古史通云名八手粟彥命
又高倉下命在八、饒速日尊天在八時二天道

曰女神、妃トシテ生クマヒレ所ノ子
天鈿賣命、猿女君等祖古史通云古事記八、宇受

賣命トレルセリ、又ヨミテ於須女氏之ハ、語音ノ
 轉セシ也、古語拾遺ニ於須女トハ、其神強悍猛勇
 ナルカ故ニ、此名アリ、今俗強女ヲ於須志ト云ハ、
 此縁也ト注ス、於須志トハ、可畏ノ謂ナルハ、此
 神ハ太玉命ノ女ナリ、
 天太玉命、忌部首等祖、古史通ニ云、思兼神ノ弟ニテ、
 齋部宿禰ノ祖、神名式ニ、安房國安房郡安房油神
 社ト見エ、又大和國高市郡太玉神社ト云モノハ、
 此神也、

天兒屋命、中臣連等祖、古史通ニ云、津迹彥尊三世ノ
 孫ニテ、奥登彥命ノ子ト部中臣ノ遠祖、春日社第
 三殿ニ祭ル所、藤氏ノ祖神ト云モノ是也、
 天櫛玉命、鴨縣主等祖、古史通ニ云、鴨縣主等ノ祖、姓
 氏録ニハ、高御彥命子ト見エタリ、神名式、大和國
 添下郡矢田ニ坐ス、久志玉比古神社ト云モノ、此
 神ヲイワテ祭ル所歟、

天道根命、川瀬造等祖、古史通ニ云、姓氏録ニ、神彥命
 五世ノ孫ト見エタリ、神系圖ニハ、神皇產靈尊ノ

子トス

天神玉命、三島縣主等祖、

天樞野命、中跡直等祖、

天糠戶命、鏡作連等祖、

天明玉命、玉作連等祖、古史通云、此神ハ伊弉諾ノ

子也ト、日本紀注ノ一書ニ見エタレト、姓氏録ニ

ヨルニ、高魂命ノ孫ニレテ、皇孫ニ陪從テ、天降レ

リト見エタリ、

天牟良雲命、度會神、益等祖、古史通云、天村雲ト云

者多シ、舊事紀ニ、天香語山命ノ子、天村雲命、又ハ

天五多底命ト云、即尾張連等ノ祖也、父ノ神ト云

ニ、天降ラレシヤ、不詳、又姓氏録ニ、明日名日命

三世ノ孫、天村雲命、コレ額田部宿禰等ノ祖也、又

元、集ニ、度會郡ニ坐ス、宮島度會氏祖、天村雲命

ハ一名天二上命、一名天小橋命ト云、天御中主

尊十二世孫也ト見エ、大田命ハ、日本紀等ニヨル

ニ、此神ハ瓊杵尊ノ御前ニ立テ、天降ラレシト

見エタリ、コレ見エレ所ハイワレノ神ナルト

未詳

天神立命山背久我直等祖延佳標注云神立作背

男下文別有天背男命據神代本紀改正

天御陰命凡河內直等祖古史通云姓氏錄云八天

津彥根命子天御影命ト見エタリ

天造日女命阿曇連等祖

天世手命久我直等祖

天斗麻彌命額田部湯坐連等祖古史通云姓氏錄

天津彥根命男天戸間見命ト見エタリ

天御陰命兄弟十ル也

天背男命尾張中島海部直等祖古史通云姓氏錄

天背男命又八阿麻西宇命ト見エタリ

神龜五世ノ孫云天壁命ノ子ト見エタリ

天玉櫛彥命間人連等祖古史通云姓氏錄云八神

龜ノ孫ト見エ

天湯津彥命安藝國造等祖

天神魂命葛野鴨縣主等祖古史通云神系圖云八

神皇產靈尊ノ子ト云

天三降命豐國宇佐國造等祖

天日神命ニミヒノカミ對馬縣主等祖延佳標注云淡島社司紀

如尚云天日神命者非伊勢太神蓋是高皇產靈裔

神也顯宗紀云日神著人曰我祖高皇產靈云對

馬下縣直侍祠神名帳云對馬島下縣郡高御魂神

社阿麻氏留神社又云山城國葛野郡木島坐天照

御魂神社右所謂日神阿麻氏留神天照御魂神是

皆天日神命也乎

天乳連日命廣瀨神廣瀨續連等祖

天八坂彥命伊勢神麻績連等祖

天伊佐布魂命倭文連等祖古史通云姓氏錄云

角凝命ノノ子卜ニ倭文連ノ祖ナラシ八建葉

槌神ノ子ナリ

天活玉命新田部直等祖

天少彥根命鳥取連等祖

天事湯彥命取尾連等祖古史通云姓氏錄云取尾

連八天辭代命ノ後ト見エリ天事湯彥ト八天

辭代命ノ別名ナリ歟

天表春命ハ意思信乃阿智祝部等祖

天下春命ハ意思武藏秩父國造等祖

天月神命壹岐縣主等祖延佳標注云紀如尚云天

月神命是亦非月讀命高皇產靈裔神也顯宗紀云

月神若人曰我祖高皇產靈右預鑄造天地之功奉

以歌荒標田田在山背壹岐縣主侍祠神名帳云壹

岐島壹岐郡月讀神社高御祖神社又云山城國葛

野坐月讀神社右所謂月神月讀神社共是天月神

命也乎已上三十七神十一ハキヲ三十一神十一

八一神ヲ脱セリナリ

副五部人為從天降供奉

物部造等祖天津麻良古史通云姓氏錄ニヨルニ

天津麻呂命ハ神兔ハ世ノ孫也ト見ユ

笠縫部等祖天曾蘇

為奈部等祖天津赤占

十市部首等祖富、侶

筑紫弦田物部等祖天津赤星

五部造為伴領率天物部天降供奉

二田造

大庭造、延佳、標注、云、姓氏錄云、大庭造、神魂命八世孫、天津麻命之後也。

舍人造

勇蕪造

坂戸造

天物部等、二十五部人、同帶兵仗、天降供奉。

二田物部

當麻物部

芹田物部

鳥見物部

横田物部

鳥戸物部

浮田物部

蒼宜物部

足田物部

酒人物部

田尻物部

赤間物部

久米物部

狭竹物部

大豆物部

肩野物部

羽束物部

尋津物部

布都留物部

住跡物部

讚岐三野物部

相槻物部

筑紫開物部

播磨物部

筑紫贊田物部

船長同共率領梶取等、天降供奉。

船長跡部首等祖、天津羽原。

梶取阿刀造等祖、天麻良。

船子倭鍛師等祖、天津真浦、古史通、云、古事記、天

村雲命、ミナ、饒速日尊、ニ從ヒシ神、ニテ、ソノ上ニ三十
二部ノ陪從、ミ瓊、ハ杵尊、ニハナキ、ナレハ、饒速日
尊ノ御装ノ、ミ、レテ、瓊、ハ杵尊ノ御事トナリシ、
疑ナシ

萬葉集、大伴家持歌、ニ、蜻島山跡國乎、天雲爾磐船浮、
等母爾倍爾、真可伊繁貫伊許藝都追、國者之勢志氏、
安母里麻之掃平、千代累彌嗣繼爾、所知来流天之日、
繼等神奈我良、吾皇乃天下治賜者、物乃布能八十友、
之雄乎、撫賜等登能倍賜食國之四方之人乎、母安天

左波受、慈賜者、下畧、マタ夫木欽、ニ、常磐井入道太政
大臣、天雲、ニ、磐船ウケシ、ソノ、カミツ、思、ハ、久シ、倭
島人トアリ、家持卿詠歌、ニ、託^{ヨレ}テ、ソノ志ヲ、イヒ、饒速
日尊ヲ、以テ、皇統ノ始トス、ソノ識見アル、ト嘉尚ス
ハ、レ、橘千蔭カ、説、ニ、神武紀、天磐船、ニ、乘テ、飛降ル者
アリ、余オモフ、ニ、彼地必天業ヲ、恢弘テ、天下ニ、光宅
ニ、足レ、蓋六合ノ中心乎、コノ飛降モノハ、饒速日
トイフ、トイハル、詞ヲ、カリテ、今ハ、天孫ノ御事ヲ、申
スナリト云ルハ、家持卿ノ微意ヲ、知ズシテ、誤解セ

レト云べレソノ上瓊、杵尊ノ天孫ナルヲ知テ、
饒速日尊ノ天孫ナルヲ知ズ、笑フニ堪タルト也。
常磐井相國ノ歌ハ家持卿ニスガリテヨマレタル
ナルベレ、又風雅集ニ賀茂遠久ガ久堅ノ天磐船漕
ヨセシ神代ノ浦ヤ、今ノミアレ野トヨメルハ如何
アラシ

御炊屋姫

古史通ニ云、舊事紀ニ、饒速日尊天降りマシテ、長髓
彦ノ妹御炊屋姫ヲ娶リ玉ヒレト見エレトヲ、日本

紀ニ、神武天皇鳥見長髓彦ト戦ヒ玉ヒシ時ニ、長髓
彦使ツレテ、昔天神ノ子天ヨリ降り玉ヒ止リ玉フ
ヲ、號シテ饒速日命ト申スコシ、吾妹ニ炊屋媛ヲメ
トリテ、遂ニ御子アリ、其名ヲ可美真手命ト申スト、
云オクリシ申ヲシルサレシソノ三炊屋媛又ノ名
ハ長髓媛又ハ鳥見屋媛トイフト、注セラレクリサ
ラハ天降りマシテ、饒速日尊ニ其妹ヲマ井ラセシ
モノ、神武天皇ト戦ヒマ井ラセレトモ、又心得ラ
レヌ事ニ似タリ、舊事紀ニヨルニ、初天降り云不、饒

速日尊ノ妃トナサレシ所ノ長髓彦ノ妹ノ名ハ御
 炊屋姫ト申セシト是亦疑フ一カラス其後神武天
 皇ト戰ヒオサラセシ長髓彦ト申セシモノ、妹ハ
 其名ヲ長髓媛トモ鳥見屋媛ト云レナルヘシ古事
 記ニ登美毗古ノ妹登美夜毗賣トレシモノ即
 コレナリ諸書ニ見エシ所ヲ併セテ推考一スレハ
 オノツカラ疑フヘキ所モナキニ似タリ
 後詞別ニ後詞考アリコトニ認サズ
 饒速日尊既神殞去坐古史通ニ云上古ノ俗ニハ葬

歟ノ時ニ或ハ七日七夜或ハ八日八夜啼哭シ悲歎
 フトアリシト見エタリ天稚彦ノ死セシ時ノ事舊
 事紀ニ見エシ所ハ八日八夜啼哭悲歎極ナリ又ト
 レルカレ古事記ニ曰ニ八日夜ニハ夜以テ遊フト
 見エタリ其遊ヒ樂シムトハ死セシモノ、神ヲ樂
 フシムルノ義ニシテ哀泣ハ其親戚ノ啼哭スルノ
 謂ナルヘシ速飄神ハ釋日本紀ニヨルニ日本紀ニ
 見エシ疾風ト相同レト見エ疾風ハ風神也ト纂疏
 ニハ見エシカト此説イカ、有ヘキコレハ也此

時ニ使タリシ神ノ名ナルハ速飄命トモ
 シルサレキタトハ健雷神トイハ雷神ニテハ
 アラサリシ事ノ如シ又曰其柢ヲハ天ニ舉テ葬斂
 ラレ玉ヒレカハ御身ニフレラレシ三種ノモノヲ
 其國ニ葬斂シメラルタトハ黃帝ノ冢ニ唯有劍
 舄在トイフカゴトシ傳列仙神名式ニ見エシ大和國
 城上郡等彌神社或ハ其神跡ナルモ知ヘカラス陸
 奥國宮城郡志波彦神社遠江國敷智郡津毛理神社
 又駿河國右度郡松城社加賀國石川郡神田神社其

國ノ風土記ニヨルニ皆此神ヲイツキ祭ル所也
 又曰神衣帶ハ其遺衣帶也手黃ハ即射鞞也讀ヲ太
 沼波トイフ倭名抄現本多末波トモ見エタリ今イ
 フ所ノ弓小手ハソノ遺制也

神名式ニ云和泉國和泉郡曾祢神社在曾祢村所祭
 饒速日命也異本信長記ニ云朝熊宮六座ノ内五社
 ハ乾ノ方ノ麓ニ立タマフ櫛玉命一社ハ朝熊峯ニ
 垂跡マレマセリ

誕生宇摩志麻治命古史通ニ云宇摩志麻治命ノ事

今世ニ傳フル所ノ舊事紀天孫本紀ニハ天香山命
ノ弟字摩志麻治命又ハ味間見命トイヒ又ハ可美
真手命トモ云ト見エテ又其次ニ兒字摩志麻治命
トレルカレキ其見エレ所ニヨラハ天香語山命ノ
弟字摩志麻治命ト申セレ所ノ兒モ又字摩志麻治
命トイフニ似タリコレハ其文ノ重複セレテ疑フ
ヘカラス其麻治トイヒ間見トイヒ真手トイヒレ
ハ其音ノ相近クレテ傳リ訛ルモノニ似タレト
舊事紀ニ據ルニ饒速日尊ノ神去マセシ時ニ其妃

ニ命ヒテ汝ノ生ヒムル子男子ナラシニハ味間見
命ト名ツケヨト云ヒレト見タレハ饒速日ノ御
子ハ味間見命ト申セレテ疑フヘカラス味間見命
ノ子ヲ可美真手命ト又ハ字摩志麻治命ト申ケル
モヒルヘカラス按ズルニ舊事紀日本紀古語拾遺
姓氏錄等ニ字摩志麻治命ヲ以テ饒速日尊ノ御子
也トヒルサレシトハ譬ハ我國ノ初高天原ニ成ル
神ノ御名ヲ天御中至尊ト稱シテ其後高皇產靈尊
ノ代ニ至ルマテ世々相襲テ皆コレヲ天御中至尊

ト稱セシトノ如クニ、饒速日命ノ御後世、
相襲テ、
饒速日尊ト稱シケレハ、拾遺等ニ、
饒速日命其衆ヲ
帥ヒテ歸順ススツロヒトハシルサレタルヘシ、

五瀨命中矢而薨矣、古事記ニ、
五瀨命陵在紀國之竈

山也、ト陵字ヲ下セレハ、史臣ノ特筆ニテ、
諸孽ノ比

ニアラスト云トテ示セヒナリ、
古史通ニ云、
舊事紀

ニハ、
磐余彦尊御年十有五ニテ、
太子ヲ立タマヒ、
四

十五歳ノ御時ニ、
御兄御子ト兼征ノ事ヲ相議リ玉

フト見エタリ、
日本紀コレニコラレタリ、
古事記ニ

ハ、
伊波禮毗古命太子ニ立タマヒシト云トハ、
レ

サズレテ、
其伊呂兄五瀨命ト、
一柱高千穗宮ニ坐シ

テ、
議リ玉フト記セリ、
舊事紀日本紀等ニ見エレ所

ハコレ又所謂正統ヲ尊フノ義歟、
古事記ニ見エレ

所ハ、
其事實ヲ得タリ、

安日王

藩翰譜ニ云、
秋田系圖ニ曰、
先祖ハ、
楨津國安倍野伊

駒ニ任ス、
年代久遠ニシテ、
詳ナルヲウラス、
中頃

安倍貞任ニ至ル、
其子孫東夷ニアルヲ、
三百餘年、
其

名モサタカナラスト云々、會津四家合考ヲ
此家ノ事ヲ記ス下ヤ、詳ニ似タリコレ必據アル
ヘシ、只正史ニ載ル所ニモ系圖ノシルス所ニ異ナ
ルトモアリテ、疑ヌクナカラス、全此書ハ悉ク疑ヲ
カクトイヘ、合考ノ既ヲトリテ、注スル下ハ本朝
百王ノ實祚タヘヌ御事ヲタニ異朝ニハアリカタ
キ事ニイヒソ傳フル、本朝ハ神國十少、天照太神ノ
神孫アマツヒツギ、絶玉ハサラシ、天地ト比ニ久
シカルヘキ御事ハムヘナリ、神孫イマタ此國ヲレ

口レノサバリシ先ニ此國ヲレシル人ノ子孫今ハ
世ニ至テ其家ノ絶ズシテ郡邑ヲシルト云下ハ猶
人ノ國ニハ例アルマレキトニテ本朝ノ一奇事ナ
レハ疑ヲハ疑ヲ傳ヘ又案ヲ加ヘテ、注シヌ
神武天皇ハジメ天下ヲ平ケ玉ハシレテ、大和國ニ
入ントレ玉ヒシ時、コ、ニ宇摩志摩治命ノ臣ニ安
日長髓彦ノ兄弟ノ者、軍ヲ起シ、膽駒ノ嶽ニ拒テ戰
フ下十餘年、天皇終ニ討カタセ玉ヒヌ、長髓彦ハ天
皇ノ御兄ヲ射泰ラセシ深ニヨリテ、殺サレ、只ノ安

日ハ東北ニハナクシテ津輕外濱安東涌山ニ居テ
子孫相續ト云々日本書紀ヲ按ズルニ神日本磐余
彥天皇甲寅ノ年密ニ皇師ヲ率テ日向國ヲ立テ東
征シ玉ハントテ此年安藝國ニイタリ乙卯年吉備
國ニ入戊午年難波ノミワキニ着セ玉ヒ膽駒山ヲ
越テ太倭國ニ入ントレ玉フニ長髓彦トイハル者
迎ヘテ乳舎衛坂ニ戦フ天皇ノ御兄吾瀨命流失ニ
アタリテカニサリマス此年ノ冬天皇自テ皇師ヲ
率ヒテ長髓彦ヲウタセ玉フ初メ櫛玉饒速日命天

ヨリ降りレテ長髓彦真ノ天神ノ御子ト思ヒ君ト
ナシオノカ妹三炊屋姫ヲ奉セ可美真手命ヲ生
リ天皇モ又天神ノ御子ト詔アリレテ疑ヒ皇師
ヲ拒テ戦ヒテ所ナリ饒速日命ハ天皇ノ天孫ニテ
此國ニコレノサレハヤクヲレルトイハレ長髓彦
ガツヒニ後ヒ奉スマレキテテ長髓彦ヲ殺
シ天皇ニ後ヒ奉ラセシカハ其正レキ真ヲホメテ
惠モ玉ヒヌフ物部氏ノ遠祖也トイハレ然レハ
長髓カ君トセレハ饒速日命ニテ可美真手命ハ饒

速日ノ子ナリ、可美真字、宇摩志麻治、共ニ同シ、
 龍彦ニ兄アリシ、トハ見エ子ト古ノ事ハ正史ニモ
 ル、ト多ケレハ傳フル所ナリナリナリ、
 安日王ト云名ハ藤崎系圖龍穩院所藏系圖トモニ
 同シ、安日ト云ハ今ノ振津國安倍野ヲ云、王ハ伎美
 トヨムヘシ、姓氏録卷末ニ不載、姓氏録姓安部公ト
 アルモノ是ナリ、公トモ王トモ通ハシ、イフ、トハ姓
 氏録和泉國諸蕃百濟公、出自百濟國酒王之後也、ト
 アルヲ、日本仁紀、百濟王之孫酒君トイヒ、姓氏録

賜姓波多公トアルヲ、日本應神紀、秦王トアリテ、
 古ハ王トモ公トモ君トモ通ハシ、書レテ、ト伎美
 トイヘルヲ、天年寶字三年冬十月辛丑、天下諸姓着
 君字者、擬以公字トアルニヨリテ、姓氏録ニハ公ト
 記セシナリ、登美彦ハ大和國城上郡外山村、今モ登
 此村トヨノリ、日本神紀、及皇軍之得鷄瑞也、時人
 仍號鷄邑、今云鳥見、是訛也、トイヘルトソレヨリ、已
 前ノ邑名ナルヘシ、
 安倍本系帳ニ云

安部神社

帳外、攝津國東生郡安部野村御鎮座

安部神

三代實錄貞觀六年伊賀國正六位上安部神授從五位下

舊說曰安日住居故大和國膽駒嶽之邊號安日野今謂安部野記

高屋安部神社三座 並大月次新嘗

神名帳大和國城上郡高屋安部神社今同郡各村御鎮座

三代實錄天安元年八月庚辰在大和國從五位下

高屋安倍神授五位上

同天安二年四月癸丑在大和國從五位上高屋安倍神授四位下

朱雀天皇承平三年九月四日奉贈大和國正四位下高屋安倍神從三位

敬任謹按二、ハ安日王兄弟並二阿波良媛ヲ祭

テレタルナル一、高屋ハ地名ナル一、ク思ハル
レト、舊事紀天孫本紀二、登美屋比賣五世孫、鬱色

雄命弟大綜杵命。此命高屋阿波良姬為妻。生皇香
色謎命。此命輕境原宮御宇天皇。御世立為皇妃。天
皇崩後。春日宮御宇天皇。即以庶母立為皇后。生皇
子。即足磯城瑞籬宮御宇天皇也。尊為皇太后。纏向
天皇御世。追贈太皇太后。上見。高屋阿波良姬
崇神天皇。御祖母。如此配。七齋。七祭
ヲレテ。其御祖母。各。負。七。給。知。一。力
テス。

騰黃。延喜式考證云。案符瑞圖。一名乘黃。或曰飛黃。

或曰翠黃。一名紫黃。王者輿服有度。則出。宋志。神馬也。

其色黃。王德御四方。則出。周書。白民乘黃。乘黃者似麟。

山海經引 背有兩角。山海經云。乘 抱朴子。騰黃。吉光。皆

周書作狐 能人語。

鹽竈明神

源君美松嶋記云。天朝地志。敬亡久矣。無由考詳。已
今據圖誌。其地則在大海之濱。由岸回者。連抱。四合。隱
若大環。獨缺其東。十二塩竈之浦。在其南。澳。而有左右
二社。蓋是太古神聖。始作魚塩之利。以贍民用。後世祝

之社而授之舊稱之曰子波日子神社方言志波由塩
也日子乃古之尊稱皇家祀典亦與焉トイヒ又左右
二社ハ志波日子志波日女ノ二神ニテ字比地迹神
須比智迹神トラント云リ己カ説ニハ志波彦ハ則
安日王ノ別名ニテ其功ニヨリテ名ツケレモノト
ラシ陸奥風土記ニ志津彦神社在田六十八束三毛
田所祭饒速日命也天智天皇三年始奉在田行神禮
トアル津字ハ波字ノ草體ヨリ誤レルニテ即塩竈
祠ヲ云ルナル一レ始ハ安日王ヲノミ祭レルヲ天

智ノ御宇ヨリニテソノ外姻ナルヲ以テ饒速日尊
ヲ配食レ去田ヲミ寄タマヘルナル一レ觀迹聞老
志ニ云塩竈神社去多賀城址十八町餘在塩竈村未
詳何代祀之慶長十二年丁未前太守黃門政宗卿令
内馬場日向監造紀州良匠鶴右衛門修造之是歲六
月廿日成焉但以貴舩糺而祀本社東元祿六年癸酉
後太守中將綱村朝臣遷糺宮于城北古内邑為別社
自是新興經營之事以武甕槌命為左宮以經津主命
為右宮其南面改神為別宮西面併三座而號陸奥國

一宮正一位鹽釜大明神謹按鹽釜神号出處古來所君細村朝臣請之神祇管領卜部兼連朝臣上記シク

草縁起関白基熙公書之其既始定焉レト武甕槌經津主以神等神塩竈ニ才ナリ何ノ関

係カアル笑ノニ堪タルナリ又同書ニ云郷老説

塩竈末社者多一曰只洲或作紀古内村二曰北宮春日三曰

小刀澤シ四曰柏木笠神五曰冠川岩切六曰南宮南

村七曰奏社市川八曰浮嶋浮島九曰梅宮吉津十曰

吉田吉田十一曰東宮東宮十二曰鼻節花瀨十三曰

石根松濱十四曰籬島塩釜十五曰桂嶋桂島凡十五

區俱末社也奏者神郷人以為其地在本社前道傳新祝之言於本社之神也按啓蒙作惣社字

ト云リ惣社トハ古ハ安日氏ノ世ハ人靈ヲ祀リテ

社數モ多カリシヲ一社ニアカメテ惣社ト惣宮ト

云シモノナラシ小池曲江カケナリシハ塩竈ノ大

祝ヲ安部出雲守ト云リト安部氏ノ祖神ナルコト

マス證トスヘシ

安倍公

藤崎系圖ニ云初姓安日崇神帝御宇河別命賞安東軍功賜安倍姓為將軍同姓爾來稱安倍故實如在崇

神天皇御宇東北夷狄動侵凌日本地故有勅命安
倍將軍河別命追伐之雖然夷狄強大官軍數度失利
于時安東出而言將軍云我皇安日王之後孫也昔年
蒙勅勅在此海濱數代今赦此罪我易追伐追伐將軍
以奏有勅許令安東追討安東強性勇猛而騎射尤妙
也凶賊大恐咸降安東麾下於斯河別命賞彼軍功賜
安倍姓為將軍同姓安東始以安日為姓爾來稱安倍
又賜將軍印守防東北夷狄矣藩翰曰秋譜云人王弟
十代ノ帝崇神天皇ノ御宇ニアタリテ安部河別命

シテ蝦夷ヲウタシメ玉フニ蝦夷ノ軍強クシテ官
軍每度利ヲ失シニ安日カ遠孫安東ト云指命ニ向
ヒ我祖此所ハナサレシヨリ長ク邊裔ノ民ト成
ヌアハレ此度御ユルシフクニ蒙ニハ命ヲステ
テ蝦夷ヲ平ケ侍リナント望シカバ河別命此由ヲ
天皇ニ奏シ安東ニ先陣ヲ玉ハリシカハ大イニ戰
テ功ヲ得タリ命彼カ戰功ヲ賞シテ姓ヲ賜ハリシ
カハコレヨリ始テ安倍ヲ以テ姓トセリ又先祖ノ
名ニ依テ安日トカリ安部トヨメリト云々案スル

崇神天皇ノ十年九月使ヲ四方ニ遣シテ從ヒク
 國ヲ平ケレノ玉フニ大彥命ハ北道ニ武停河別ハ
 東道ニ吉備津彥ハ西道ニ丹波道臣命ハ南ニ赴ク
 コレ本朝將軍ノ始ナリ東ヲ平ケレハ武停河別命
 ナリ安倍トハ見エズサレト新撰姓氏録ヲ按スル
 ニ武停川別命ハ孝元天皇ノ皇子大彥命ノ子ナリ
 阿部朝臣ニ阿閉臣ニ阿閉間人臣ニ阿部志斐臣ニ
 皆大彥命ヨリ出タレハ安部河別命凡クハ傳フ
 一レタレ武停川別命ノ後ヲハ竹田臣凡ク甲ス也

日本史時頼列傳ニ云相傳頼時之先安日大和人長龍
 彥之兄也神武帝東征放安日於陸奥率土濱子孫相
 繼崇神帝時有安東者屬武停川別討蝦夷有功川別
 嘉之授姓安倍以為同姓今按姓出自川別父大彥命
 然川別未嘗稱安倍後世附會之說也己上ノ諸說ノ
 中日本史ソノ正ヲ得タリ倭姬命世紀ニ安部武停
 河別命トアルモ後世ヨリノ稱ナル一レ
 サレソノ支族區ニ分レタリ引田ノ族アリ久擘ノ
 族アリ長田ノ族アリ池田ノ族アリ

日本史比羅列傳云阿倍比羅夫或稱阿倍利田

臣齊明帝時為越守四年承勅率舟師一百八十艘

伐蝦夷本書此條書阿倍鰲田停代二郡蝦夷乞降

夷首思荷進而誓曰奴等食鳥獸肉故持弓矢不敢

執之向官軍若不踐此言者鰲田浦神罰之自今將

清白心奉天朝乃授思荷位小乙上定淳代津輕郡

領會渡島蝦夷等大饗而歸又伐肅慎獲生蠶二羅

皮七十張以歸而獻之明年再討蝦夷簡集飽田停

代津輕三郡及膽振鉏蝦夷三百七十三人降虜三

十五人饗賜之以船一雙與五色絲帛祭地神進至

由入箄有間免蝦夷膽鹿島菟穗名進曰按膽鹿島

二人可以シリハシ後方羊蹄為政所比羅夫從之因置郡領

遂伐肅慎虜四十九人以歸本書注賜比羅夫及道

奧司住各二階六年率戰艦二百伐肅慎將陸奧蝦

夷乘船到大河側渡渡島蝦夷千餘向河而營二人

呼曰肅慎舟師多來將殺我願渡河從軍比羅夫命

船召之問賊所伏與舟數蝦夷指其處且曰舟二十

餘艘因遣使召賊賊不肯來乃積絲帛兵鐵於海畔

餽之賊繫羽為旗齊掉近來委布而去是渡島蝦夷
 之別種也食頃乞和比羅夫不聽進攻其柵能登馬
 身龍為賊所害比羅夫終破賊虜五十餘人天智稱
 制與前將軍阿曇比羅夫等救百濟時為大華下後
 將軍尋與前將軍上毛野權子等討新羅與唐援兵
 戰我軍不利百濟王隨諸將來投日本其後比羅夫
 為太宰權帥進大錦上統日子少麻呂
 少麻呂續日本紀少作初冒姓引田朝臣持統朝為
 直廣肆賜食封五十戶日本大寶中為造大殿垣司

慶雲元年救復姓阿倍朝臣二年拜中納言和銅元
 年再拜中納言前罷中納言以其公平超百寮進叙
 正四位上為造平城宮臣長官明年叙從三位少麻
 呂奏言引田朝臣通閑東人船人久等朝臣御田次
 長田朝臣大麻呂多祁留等六人實阿倍氏正字與
 臣無異但緣居處終成別氏據理斟酌良可哀矜今
 臣特蒙天恩已復本姓而通閑等未霑聖澤伏冀辨
 正氏族同賜本姓許之養老元年進正三位又為同
 族池田萬呂請曰正七位上池田臣萬呂本系同族

實非異姓、親親之道、理須改正、請賜阿倍池田朝臣
 姓、又許之、二年、轉大納言、四年、薨、續日本紀トアリ、比羅
 夫ノ族祖ノ下、別ニ所見ナケレバ、同姓ナリト云
 ル、阿倍引田朝臣、阿倍久努朝臣、阿倍長田朝臣、阿
 倍池田朝臣、ナト云ル氏ノ、一ツトシテ、姓氏録ニ見
 エルモノナシ、サレハ、安日王ノ子孫ノ奥越ノ邊
 ニ、敬在セシモノナリ、疑ナカルベシ、日本紀ニ
 阿倍久努朝臣麻呂トイフ人アリ、モ、同族ナラン
 獲嶋ノ族アリ、

續日本紀ニ云、寶龜四年、下總國獲嶋郡人、從八位
 上、曰下部淨人、賜姓阿倍獲嶋臣トアリ、姓氏録ニ
 曰下連阿閉朝臣、同祖大彥男、紐結命之後也、日本
 紀漏トイヘリ、己カ思フニハ、安日氏世々曰下將
 軍トイヘリ、故ニ曰下部ヲ以テ、氏トセシニテ、
 姓氏録ニイヘル曰下連トハ、異類ナルベシ、又同
 紀ニ、安倍獲嶋臣墨繩アリ、曰下將軍ノ下ハ下ニ
 云ベシ、
 陸奥ノ族アリ、

續日本紀神護景雲三年ノ條ニ、白河郡人外正、七
 位上文部子老、賀美郡人文部國益、標葉郡人正六
 位上文部賀例、努等十人、賜姓阿倍陸奥臣トイヒ、
 三代實錄ニ、陸奥國安積郡人矢田部今継、文部清
 吉等十七人、賜姓阿倍陸奥臣トイヒ、續日本後紀
 ニ、陸奥國柴田郡權大領文部豊主伊具郡、撰大毅
 陸奥真成等、戸二烟、賜姓阿倍陸奥臣トイヒ、
 小殿ノ族アリ、

續日本紀天平神護三年ノ條ニ、淨足等十一人、賜

姓阿倍小殿朝臣トアリ、

安積ノ族アリ、

續日本紀神護景雲三年ノ條ニ、安積郡人外從七
 位下文部直繼足、賜姓阿倍安積臣トイヒ、又實錄
 三年ノ條ニ、陸奥國安積郡人文部繼守等十三人、
 賜姓安倍安積臣トアリ、

信夫ノ族アリ、

續日本紀神護景雲三年ノ條ニ、信夫郡人外正六
 位上文部大庭等、賜姓阿倍信夫臣トアリ、

柴田ノ族アリ

續日本紀神護景雲三年ノ條ニ柴田郡人外正六位上
文部嶋足賜姓安倍柴田臣トアリ

會津ノ族アリ

續日本紀神護景雲三年ノ條ニ會津^郡人外正八位下
文部庭融等二人賜阿倍會津臣トアリ此ハ皆安日王ノ支族ノ陸奥ニ散在セシ者ナルハレ文部トイヘルハ久レク沉淪シテ賤役ヲ執レ故ノ稱ニテソノ氏ヲ云ニハアラレシ三代實錄ニ内膳

典膳

正六位上文部谷直平雄敬位正七位上文部谷直福麻呂等トアルニテモ氏ニアラサルヲ知ラル姓氏錄左京皇別ニ文部^谷天足彦國狎人命後也和泉國皇別ニ文部首武内宿祢男紀角宿祢之後也山城國神別ニ文部鴨縣主同祖鴨建津身之後也トイヘルト同レカルヘカラス總テ姓氏錄ハ畿内ノ姓氏ノミヲ載タレハ自餘ノ姓氏ヲハコノ書ノミニテ斷^{コト}ヘカテ大續日本後紀ニ姓氏錄所載始祖錯謬非實私門之大患也トハ多真人清雄

カ云ルニ實ニナル事ナリケリ

因ニ記ス文字ニツキテイフ時ハ阿倍阿閉安倍

安部等ノ差別アレ氏古ハ互ニ用タリ其内日本

紀姓氏録ハ阿字ヲノミ用ヒ後紀實録ハ安

字ヲノミ用ヒ續紀其他ハ文字混雜セリ織田信

長ノ時安部ヲ所止知ト唱アル人アルハ

故アリテ讀替シニテモアルハ別ニ敢ノ一流アリ是ハ他姓ナルベシ

續日本紀神護景雲元年ノ條ニ伊勢國多氣郡人

敢磯部忍國ニ外正五位下ヲ授ラレ夫應元年ノ

條ニ伊賀國人敢臣宇奈孫船主等ニ姓敢臣

ヲ賜ヘリシト見エタリ古ハ安倍ニ敢ノ如ク半

濁ニ唱ヘレガ後世ニ及ヒテ重濁ニ呼コト成

シナルヘレ後世ノ物ナガラ竹取物語ニアヘテ

レト云フハ氏ノ安倍ヨリ出タリト云コトアリ

三代實録ニ陽倍ニ字意與ハ戸兩字語相涉トア

ルモ半濁ニ唱フルヲ云ナリ敢ハ伊賀ノ地名也

敢都美惠ニ遷リ云フト云ナリ伊勢太神中伊賀國
名帳ニ伊賀國阿拜郡敢國神社アリ

安東

安東ノ字、諸家ノ語ニ也。春波留ト訓クルハ、後世
云名乗訓ノ體ニシテ、此頃ノ讀法ニアラズ、安東將
軍ノ下ハ家乗ニ云ルカ如シ、本文ニ引タル元經ハ、
隋王通ノ述作ニテ、其弟子薛攸カ傳ヲ作レルナリ、
太伯之後ト云ハ、我祖ノ自稱ヲ記セルニテ、彼ヨリ
イハルニアラズ、唐太宗ノ晋書ヲ作ラレシ時、ソノ
語ニ本ツキテ、自詔太伯之後ト記セラルナリ、松
下見林元經ヲ見ズレテ、晋書ニ出タルヲ首出ト思
ハルハ笑フニ堪タルナリ、其文左ニ出ス。

異稱日本傳ニ云、晋書說我國事、其與前史有異
同、互參考諸史皆倣此、詔太伯之後者、此為首出、夫
一犬吠、虛千犬吠聲、從晋書此言出、後史多同然、一
辭、何其不詳乎、聽者不察、引以為口實、何其惑乎、自
天地開闢之初、有我國而號曰大日本、豐秋津洲、我
君之子世々傳統、所謂天照大神之神孫也、吳始自
太伯、世之相後、數千萬歲、日本何為太伯之後哉、按
史記、吳世家、太伯卒、無子弟、仲雍嗣、立後十世、夫
差為越、勾踐所滅、斯時當我朝孝昭天皇三年、越王

之前吳不通日本。謹按國史及我諸書，有異域人鄉風慕義，未為臣民者，其氏族號蕃別，蕃別種類甚多。其中有松野氏，新撰姓氏錄曰：松野，吳王夫差之後也。此吳人來于我之始也。三國時，我通吳，日本書紀曰：應神天皇三十七年春二月，遣阿知使主都加使主，於吳令求錐工女。二使者渡高麗，欲達于吳，更不知道路，乞知道者於高麗。高麗王乃副久禮波久禮志二人為鄉導，由是得通吳。吳王與工女兄媛弟媛，吳織冠織四人，是也。政事要略第二十五卷及維摩

會緣起曰：大織冠鎌足執政時，百濟僧凡法明來于對馬，吳音誦維摩經。因吳音曰對馬讀，乃吳音之源起也。不求其端，不訊其末者，率爾曰：吳國風斷髮文身，我俗亦斷髮吳服，而多吳音，則太伯之後也。此豈非傳會之說乎？或以官人輩染齒為文身之義，甚大謬也。男子以信子鐵漿染齒者，起於鳥羽天皇，事具惠命院僧正記。釋圓月作日本史獻于朝，以太伯為始祖，故有議不行。見蕉子抄。源親房公御皇正統記，闢傳會之說，為太備矣。藤原兼良公亦曰：...

伯姬姓逃荆蠻斷髮文身以避龍蛇之害而吳越
海本朝俗皆黥面推髻故稱太伯之後此蓋附會而
言之然吾國君臣皆為天神之苗裔豈太伯之後哉
號姬氏國者出誌公識文考韻書姬婦人之美稱天
照大神始祖之陰靈神功皇后中興之女主故國俗
或假用之惟依字不依義也

讚珍濟興武

此七本文ノ如クニテ妨ナリト云ルヲ松下見林
皇統ト云ル故牽強附會ノ説ヲ作シ其内武ヲ

皇統二世ニ係ルト尤甚レトイフ其文左ニ
出ス

異稱日本傳ニ云今按永初元嘉嘗本朝允恭天皇
之時大明昇明當雄略天皇之時讚略履中天皇諱
去來穗別訓珍反正天皇諱瑞齒別瑞珍字形似故
訛曰珍濟允恭天皇諱雄朝津間稚子濟津字形似
故訛稱之軍郡文獻通考作職興安康天皇諱允穗
訛書興武雄略天皇諱大泊瀨幼武略之也云云
今按南齊高帝建元元年當我朝清寧天皇即

通鑑音註三十三
高麗 至安珍
父の胡三省注
珍即漢河梁郡安
彌縣也後人從者
書之以彌為跡傳
寫之訛又以跡為
珠トハコノ珠
梁書ニ彌ト註
トハ表裏アリ

致東

天皇諱白髮武廣國押稚日本根子故略曰倭
諸家ノ譜ニ年年波留トアルハ例ノ名乘トナリ藤
崎系圖ニ云應神帝御宇蝦夷作逆致東奉詔追伐之
依其賞賜號奧州日下將軍ト云リ龍德院系圖モ藩
翰譜モコノ意ニ同シ

日下將軍

日下ノ字ハ最古ト國號ニテ大物主ノ此國ヲ名ツ
ケラレハ號ニテハアヲヌカト思フコトアリソノ故

ハ爾雅ニ觚竹北戸西王母日下詔之
鄭樵カ注ニ日下今日本也トアルニテ知ヘレサテ
長髓彦日下ノ軍ヲ帥テ孔舍衛坂ニ屯セシテ日下
將軍トモ久左加將軍トモ坂ノ畧語ナリ稱レカ
ラニ後世日下ノ字ヲ久佐加氏訓リサレハ子孫マ
テ世々日下將軍ノ稱アリシナルヘシ家譜致東ノ
條ニ號奧州日下將軍トタ頼時ノ條ニ稱云安倍日
下將軍トタ安秀ノ條ニ為羽奧鎮狄將軍又日下將
軍トナリ新羅記頭書ニ人皇六十六代一條天皇

御宇長保元年上巳日安日國東畚内之時任安
號東海日下將軍トイヒマダ人皇八十二代德島羽
院之御宇建久三年貞季畚内之時改安日姓為安倍
號下國安東太郎貞季日下將軍外濱殿也トイハル
是ナリ後世賊軍ノ首領ノ自稱シテ日下將軍ト云
ル類ニアラズ天草日記ニ大將日下將軍日下トハ
日出處トイフ義日没處ニ對テトイハルニテ日本ト
云ニ同レ續日本紀藤原廣嗣カ上表ニ我聖朝之為
國也光宅日本臨長安而廷明包括萬邦勳唐王以爭

雄トアハルミコノ意ナリ

安東太郎

古陸奥ノ方言ニ安太多良ト云ルハ安東太郎ヲ
レルナリ萬葉集ニ寄弓陸奥之吾田多良真弓著絲
而引者香人之吾乎事將成ト夕美知乃久能安太多
良末由美波自伎於伎氏西良思馬伎那婆都良波可
馬可毛畚解ニ云絲ノハヅレ置テソラシカキナ
トイハルナリキナハオキナバヲ畚ケリ聲ル心ハ
夫ヲユルヘカカバ未遂ニカキナハジト思フ心ナリ
マ夕陸奥國歌ニ安太多良乃稱爾布須思之能安里

都、毛安礼波伊多良牟祢度那佐利曾祢卷七陸奥
 之、吾田多良真弓トコニ神樂歌ニモ古今集歌物ノ
 歌ニモミケノクノアダチノコトヨリ古ハア
 ダラトイハル所ヲ後ニアタキトイフ然ラハ
 和名抄安達郡トイフナリコトハトイハル
 ハ猪ナリ猪ハ必臥所フカヘヌキノトレハ譬ト
 レリイタラシハ街タラシク畧ケリ子トナリリ
 事ハ臥所外ヘ去陸奥ノ安東太昂真弓ト云ハ安
 東太昂ノ住所ニツキテ山ノ名ニ負ヒサテ其山ニ
 弓村多キヲ云ナリ後世神ニ齋テ安太多昂大明神
 トイヘリ延喜式ニハ安積郡飯豊和介神社トアリ
 日本紀畧ニ寛平九年九月七日後陸奥座正六位

上飯豊和介神安達祢宜大刀自神安達嶺飯津賣神
 並正五位上トアルモ是ナリ陸奥國安達郡本宮社
 記ニ云正一位安達太昂大明神ハ往昔ヨリ安達嶽
 ニ鎮坐シテ臈明神トアカマヘ奉ル山ノ形臈ニ似
 タル故コシノタケトモイヘリ飯豊別神飯津比賣
 神ハ臈ト云ヨリ出タル地名ニヨル所ノ神躰ナル
 一ニ祢宜大刀自神久安年中安達嶽ヨリ本目村菅
 森山ヘ勧請シ奉ルト云傳フ此時ヨリ本目村ヲ改
 テ本宮ト云四月一日九月十九日ヲ以テ恒例ノ祭

祀トス。毎年九月十九日、渡御ノ神事アリ。社例、眞弓
神事、山鳥神秘、錦木古實ト云事アリ。三弓ノ神事ト
テ、傳ル所ノ神秘ナリ。天正年中、テ、春秋社頭ニシ
テ、此行事アリシカ、館主氏家新兵衛退去ノ後、神事
ノ料ヲ資クル人ナク、其後斷絶セリ。今モ山鳥出レ
ハ、山事アラシトテ、氏人等恐レテ、ヒタスラ災ヲカ
ヌカレシトテ祈リ、又此地ニ生ル、人アヤマリテ
山鳥ツ喰スレハ、立處ニ其祟アリト傳ヘタリ。是則
此社例ナルノレルシナリト云リ。又安達太昂山相

應寺トテ、寺アリテ、ソレガ縁起ト云モノアレト
後世ノ偽造ニテ、取ニタルモノナシトマシ、江戸深川
ニ同レ大明神ヲ鎮祭セシ、鈴木某カ社記ニ云、安達
多羅大明神祭神五座、祢宜大刀自神、飯津賣神
大己貴命、少彦名命、飯豊和介神、攝社大山
祇神、當社大己貴命ヨリ十二世ノ孫、祢宜大刀自
神ノ神胤ニテ、國造ナリシユエ、代々安達多羅ヲ以
テ本姓ト致シ、候處、先年熊野大權現ノ神社ヲ勧請
シテ奉仕ノ時、故有テ名字ヲ鈴木トス、祖父佐渡守

代ニ至リ、吉田ニ位兼敬卿ノ仰ニヨリテ、氏ヲ藤原

ト改ムト云リ、深川蛤町ト云處ニス、ヒレ、黒船編

荷ト云リ勸請シ、安東太郎大コ、ニ大己貴命ト云

明神ヲ相殿ニ鎮祭セシナリ、大己貴命ト云

ハ例ノ大物主大己貴ヲ、同體ト思ヒマカヘテ、大物

主トイフヘキヲ、大己貴トハ記セルナリ、

